

[主 催] ヴォーカル・コンソート東京 [後 援] 公益財団法人 日独協会 株式会社 ハンナ [企画・制作] 一般社団法人 アートフォーラムNOAN

http://vctokyo.jp



Programm

Musik in Worten - Worte in Musik

Gregorio Allegri Miserere mei, Deus G. アレグリ (1582–1652) 「神よ 私を憐れんで下さい」

[第1合唱隊] Sp.1 櫻井愛子 Sp.2 金成佳枝 Alt. 奥村泰憲 Tn. 堀越尊雅 Bs. 阿部大輔 [第2合唱隊] Sp.1 石井朝奈 Sp.2 池田真紀 Alt. 岩渕絵里 Bs. 關 秀俊 [グレゴリオ聖歌] 沼田 臣矢

Heinrich Schütz

Musikalische Exequien SWV 279-281

H. シュッツ (1585-1672)

「音楽による葬送」

I Konzert in Form einer deutschen Begräbnis-Missa SWV 279 【ドイツの埋葬式ミサの形式によるコンチェルト】

"Nacket bin ich von Mutterleibe kommen" 【裸で母の胎内から出た私は】 (ソリスト)

Sp.1 Marie Luise Werneburg Sp.2 金成 佳枝 小松 奈津子

Alt. 佐藤 智子

Tn.1 Tobias Mäthger Tn.2 沼田 臣矢

Bs. 關秀俊 楢﨑 誠広 磯谷 大樹

II Motette "Herr, wenn ich nur dich habe" SWV 280 モテット 【主よ あなただけが私にあれば】(二重合唱)

Ⅲ Canticum Simeonis SWV 281【シメオンの賛歌】

─"Herr nun lässet du deine Diener in Frieden fahren" 【主よ、今こそこのしもべを安らかに去らせてください】 ─"Selig sind die Toten"【死せる人は幸いである】

チェロ:山本 徹 ヴィオローネ:角谷 朋紀 オルガン:勝山 雅世

Pause 休憩 15 分

Georg Friedrich Händel G. F. ヘンデル (1685–1759) "Dixit Dominus" HWV 232 「主は仰せになった」

1 合唱 Dixit Dominus 【主は仰せになった】

2 アリア (Alt) Virgam virtutis tuea 【主はあなたの力ある杖を】

3 アリア (Sop)Tecum principium in die virtutis 【あなたの力で】

4 合唱 Juravit Dominus 【主は誓いをたて】

5 合唱 Tu se sacerdos in aeternum【あなたはとこしえの司祭である】

6 ソロと合唱 Dominus a dextris tuis 【主はあなたの右に立ち】

7 ソロと合唱 De torrente in via bibet 【主は道のほとりの川から】

8 合唱 Gloria Patri, et Filio 【父と子と聖霊に御栄えあれ】

長尾 良子 (Nr.1.6) 新明 裕子 (Nr.1) 小沼 俊太郎 (Nr.1.6) 横町 あゆみ (Nr.2) Marie Luise Werneburg (Nr.3) 高山 ゆみこ (Nr.6) 古賀 裕子 (Nr.6) 堤 智洋 (Nr.6) 佐藤 悠子 (Nr.7) 岡田 愛 (Nr.7)

オーケストラ: VCT バロックオーケストラ (コンサートマスター 高木 聡)



演奏にあたって 言葉と音楽をめぐる3つの視点



四野見 和敏

作曲家が言葉(歌詞・テキスト)に音やリズム、そしてハーモニーを付ける場合、その作曲の姿勢は様々である。グレゴリオ聖歌の影響が残る、バロック初期のアレグリ。イタリアの合唱書法をドイツ語で展開したシュッツ。そして言葉のリズムを追求したヘンデル。それぞれが言葉と音楽の関係を探求し、試し、そして新たな世界を創造した。私たちは、さらにその奥のその先にある世界を知るために、感覚を研ぎ澄ませて演奏したいと思う。

【Allegri: Miserere mei「神よ 私を憐れんで下さい」】演奏者は、 正面の祭壇前で歌う第1合唱隊 (5人) と、2階バルコニーで グレゴリオ聖歌を朗唱するソロ奏者、そして後方のオルガンの 傍で歌う第2合唱隊 (4人) に分かれて配置される。歌われる ラテン語のリズムは、ドイツ語の様に強弱のアクセントで規定 されない。飛翔 (elan) と休息 (repos) を繰り返しながら、文章の 出発点から終止点までよどみなく流れる。2つの合唱隊は詩篇 の聖句を、毎回同じメロディーとハーモニーで歌う。聖句の冒頭は 必ず全員がハーモニック (和声的)に歌い、その後すぐに各 パートが流麗な旋律で絡み合い、ポリフォニック (多層的)な流れ で終止に向かっていく。音楽の構造は同じでも、聖句の違いに よって言葉の抑揚も変化するので、毎回同じ印象はない。この 豊かな抑揚の変化こそ、ラテン語のもつ特徴で、生命そのもの である。同じメロディーを違う言葉で歌っても言葉の意味は損な われない。それどころか言葉が音楽を利用し神秘性を高める 力があることを、アレグリはこの曲で示している。2つの合唱隊の 響きのコントラストもある。第1合唱隊が低音域から中音域の 濃い、深みのある音色で内面の葛藤や意志を表現する一方、第2 合唱隊は中音域から高音域で、魂の救いを希求する清らかな 響きとなって上部から降り注ぐ。

【Schütz: Musikalische Exeguien「音楽による葬送」】ロイス 伯爵は死の1年前、聖書やルターのコラールの詩句を書き込んだ 棺を作り、シュッツに作曲を依頼した。ドイツ語のテキストの テーマは死、過ぎ去った過去、復活そして永遠の命である。 1636年、ロイス伯爵の葬儀の際、この曲は初演された。曲は3部 構成の葬送音楽で、I部は Konzert (後の時代の協奏曲では ない)様式で、6人のソリストと合唱で対比させながら進む。 個人の心情表現をソリストが歌い、共同体の祈りを合唱が歌う。 Ⅱ部は二重合唱でコーリ・スペッツァーティ (合唱隊を離れた 位置に配置する)演奏様式である。言葉が空間によって方向性 を持ち、豊かな音響で広がって行く。第Ⅲ部は、祭壇の前で 「現世の人間の合唱」がシメオンの賛歌を歌い、それを天国へと 導く「天使の合唱」が教会の上部で歌われる。シュッツの演奏は 言葉の表現「語ること」に重心が置かれている。もしも音楽 (旋律)的な美しさだけで歌うとすると、言葉の意味がにぶり 言葉のリアリティーが後退する。言葉の発音・アクセントだけを 追求しても、音楽の感覚的美しさがなければ人の心が動かない。 シュッツは常に、この難しいバランスで歌うことを私たちに強い ている。私たちが目指す理想的な演奏は、音楽と言葉の一体化 である。音楽の機能がドイツ語のアクセントやリズム、発音などに 合致する時、言葉は力強い意志を現わし伝達力を持つ。題名に ある Musikalische(音楽による)とは、そのような音楽の力を 言い現わした言葉で、シュッツ自身がこの作品で証明してみせ ている。

【Händel: Dixit Dominus「神は仰せになった」】この曲は言葉の持っているリズムが強調され、劇的効果を上げている。1曲目の"Dixit"(言った)、4曲目 non poeni tibi(悔いることはない)、6曲目 confregit (破壊する・粉々にする)、ruinas (破壊で満たす)、Conquassabit(壊す・激しく揺する)などにヘンデルが付けたリズムは、いずれも刺激的、衝撃的で生々しい。リズムで言葉を動かし、言葉の内部にあるエネルギーや感情を、より辛辣に激しく外側に押し出す。ヘンデルはリズムと言う運動性や推進力のある要素を言葉に与え、高揚感や緊張感のある音楽を生んだ。アレグリやシュッツと違い、音楽を言葉のリズムで満たし、完全に支配しようとしている。この詩篇のテーマは、神のとてつもない大きな力と権威、異端者との激しい戦い、破壊、混乱、荒廃、そして讃美である。あたかも壮大な歴史オペラが目の前で繰り広げられているようだ。雄弁でスケールの大きいドラマである。その本質は「動=リズム」である。





Vocal Consort Tokyo

音楽監督・指揮 四野見 和敏

ヴォーカル・コンソート東京は、飯守 泰次郎 (新国立劇場オペラ芸術監督)、高折續、四野見 和敏らが発起人となり、2014 年6月から活動を始めている。オーディションで選抜された若手の声楽家を中心に構成され、バロックから現代までの合唱曲を演奏するプロフェッショナルな合唱団である。様々な時代の作品に対応するために、その作品が求める時代様式や歌唱(発声)法の統一に重点を置いている。今回は特にドイツから、ドレスデン室内合唱団やシュツッツガルト室内合唱団のメンバー 2 人を招聘している。

ヴォーカル・コンソート東京メンバー

 Sopran
 池田 真紀
 石井 朝奈
 岡田 愛
 金成 佳枝
 小松 奈津子

 櫻井
 愛子
 佐藤
 悠子
 高山
 ゆみこ
 長尾
 良子

 Marie Luise Werneburg*

Alto 岩渕 絵里 古賀 裕子 佐藤 智子 新明 裕子 横町 あゆみ 奥村 泰憲(CM)

Tenor 小沼 俊太郎 沼田 臣矢 堀越 尊雅 Tobias Mäthger*

Bass 阿部 大輔 磯谷 大樹 關 秀俊 楢﨑 誠広 堤 智洋

*ゲスト団員 (CM) コンサートマスター

VCT バロック・オーケストラ

第1ヴァイオリン 高木 聡(CM) 小田 瑠奈 宮崎 桃子

第2ヴァイオリン 大谷 美佐子 宮崎 蓉子 堀内 由紀

ヴィオラ 三輪 真樹 鈴木 友紀子

チ ェ ロ 山本 徹

ヴィオローネ 角谷朋紀

テオルボ佐藤亜紀子

オ ル ガ ン 勝山雅世



指揮 音楽監督 四野見 和敏

東京音楽大学卒業後、指揮をウィーン国立音楽大学指揮科教授エステルライヒャー、湯浅勇治に師事する。1992 年 ウィーン・マイスタークラスの最優秀者終了コンサートでウィーン・プロアルテ・オーケストラを指揮。好評を博す。 ハンブルクに留学、ハンブルク歌劇場合唱団のもとで、数多くのオペラ合唱の研鑽を積む。またハンブルク音楽 大学の教会音楽指揮及び演奏法を専攻すると共に、ハンブルク・バッハ合唱団、聖ヤコブ教会附属合唱団の団員 としてプロテスタント教会の礼拝式及び演奏会で活動する。デトモルト音楽大学では、ライプツィヒ聖トーマス教会 楽長ビラー氏に師事し、バッハ作品の指揮を学ぶ。これまでに東京二期会、関西二期会等で副指揮・合唱指揮を 務める。



ソプラノ Marie Luise Werneburg マリー ルイーゼ・ヴェルネブルク

ブレーメン出身のソプラノ歌手。ブレーメン音楽大学を卒業し、ヨーロッパを代表するドレスデン室内合唱団 (ラーデマン指揮)のメンバーとして活躍している。自然体で明るく澄んだ歌声は多くの人を魅了し、世界トップ クラスの RIAS 室内合唱団、コレギウム・ヴォカーレ・ゲント (ヘレヴェッへ指揮)などへ招聘されている。専門は ルネッサンスからバロックで、特にシュッツやバッハを得意としている。



テノール Tobias Mäthger トビアス・メトガー

ドレスデン出身のテノール歌手・合唱指揮者。ドイツ合唱界でトップレベルを誇る、ドレスデン室内合唱団(ラーデマン指揮)とシュトュッツガルト室内合唱団(ベルニウス指揮)の一員。さらに彼はドレスデン室内合唱団やRIAS室内合唱団を率いている世界的指揮者、ラーデマンのアシスタント指揮者として、深く温かみのハーモニーで生きいきとした音楽の創出に貢献している。シュッツ作品のCD録音ではソリストを務めている。

ご支援のお願い

演奏会開催にかかる費用(演奏会場費 練習場費用 楽譜代 団員報酬 その他)は チケット収入だけでは賄えません。しかし、ヴォーカル コンソート 東京はチケット代を 高く設定するべきではないと言う信念があります。なぜなら、優れた音楽芸術の享受の 金額は、常にその方が支払える金額が基本だからです。より多くの皆様へ合唱芸術に 触れていただく場をご提供していくため、ヴォーカルコンソート東京では、協賛の募集を 行っております。質の高い合唱芸術の理解者であり、日本における合唱文化の推進者で あられる皆様のご支援を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。 ご寄付・協賛のご案内

詳細:http://www.vctokyo.jp/support.html お問い合わせ:info@vctokyo.jp

ご寄付があった方のご芳名(敬称略)

飯守 泰次郎 阿部 益雄

尾形 優子 高木 敦雄

三上 かーりん

一般社団法人 アートフォーラム NOAN